

# 平成 27 年度事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人しょうがい生活支援の会すみか

## 1. 事業実施の方針

「障がいの有無を問わず誰もが自己実現できる社会づくり」「24 時間 365 日このまちで安心して暮らせるシステムづくり」という本法人のミッションに基づき、引き続き事業を展開した。

法人の収益の軸となる事業に於いては、さんかくの放課後等デイサービスを中心とする利用者増と、放課後児童クラブゆうの安定した運営により、大幅な黒字を達成する事ができた。しかし、財政規模の拡大によって、当初目標に掲げた年間予算額の 3 ヶ月分の運転資金確保には至らなかった。また、これまで大切にしてきたインフォーマルなサービスについても堅調であり、さらに新たな研修事業の受託など、障がいのある子どもと保護者に対する支援を中心に幅広い事業を展開する事ができた。

一方で、今年度の重点課題として掲げた項目については、多くの課題を残す結果となった。詳細は以下の通りである。

### ①組織運営の基盤となる理事会・事務局の強化

理事それぞれに多忙な中、顔を合わせて理事会を開催する機会がなかなか持たず、メールと個別のやりとりをしながら運営することとなった。そのため、スムーズな意見集約と意思決定が課題となった。

また、さんかくの常勤職員 1 名が 8 月に退職したため、事務局スタッフが事業に関わることが増えた。その結果、事務局業務に手が行き届かず、パートスタッフで対応はしているものの十分な体制と言える状況には至らなかった。

### ②児童福祉法に基づく児童通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）における支援の充実と、障害者総合支援法に基づく通所支援事業立ち上げの準備

前述の常勤職員退職と共に、パートスタッフも不足傾向となった。児童系のサービスは特に放課後等デイサービスの事業所数が近隣圏域で倍増しており、現在のスタッフ不足と共に今後の利用者動向にも大きい影響があると思われ、対策が必要となるであろう。

### ③障がいに関する理解促進のための情報発信

これまで同様の講演依頼と共に、今年度新たに『放課後子ども総合プラン』に関わるスタッフ向けの研修会を受託した。特に発達障がいの分野は社会的関心も高まっており、新たなチャレンジについても高評価を得ることができた。しかし、

ホームページの更新頻度の減少や会報（虹色通信）の発行が滞るなど、日常的な情報発信に課題が残った。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

上記の事業実施の方針を具現化するため、以下の事業を行った。

#### ① 障がい児・者の休日支援事業

支出額 8,844 千円

##### A. 中原特別支援学校放課後児童健全育成事業（委託事業：みやき町）

障がいのある児童がリラックスして楽しめる環境を提供し、就学時間終了後及び長期休暇期間中に安全且つ安心して過ごせる場となるよう目指した。

実施日：月～金曜 14:00～18:00

土曜・長期休暇中 9:00～17:00（8:30～18:00 の延長あり）

実施場所：中原特別支援学校多目的室

スタッフ数：1日当たり6名

対象者：中原特別支援学校に在籍する児童・生徒

対象人数：（延べ）2,690名

##### B. 障がい当事者と家族の余暇支援プログラム

（補助事業：佐賀県地域福祉振興基金）

障がいの種別を問わない多様な障がい当事者及び家族が集い、屋内外で楽しめるプログラムによって、仕事や学校などの日常とは違うホッとできる時間づくりを行った。

実施日：動作法10日、外出活動6日

実施場所：さんかく（動作法）

ヤフオクドーム【野球観戦】、筑紫野ゆめタウン【ボーリング】、ハウステンボス、麒麟ビール園、櫛田神社、いのちのたび博物館（外出活動）

スタッフ数：

（延べ）講師13名、ボランティア54名、事務局15名（動作法）

（延べ）ボランティア35名、事務局12名（外出活動）

対象者：障がいのある人及び家族

対象人数：(延べ) 利用者・家族 69 組 (動作法)、34 組 (外出活動)

② 障がい者の就労に関する事業

支出額 172 千円

リサイクルショップぐるり

寄せられた不用品や作業所等で作られた野菜等の商品販売等を通して、障がいのある人の社会参加の促進を目指した。

実施日：7/5、8/8、11/7、2/6,7

実施場所：踊り座舞工房、盆踊り大会、ふれあい広場、旭地区文化祭

スタッフ数：(通年) 事務局 3 名

対象者：(延べ) 障がいのある人や関係者 30 人

③ 福祉に関する相談支援事業

支出額 37 千円

コミュニティサロン

障がいの有無にかかわらず様々な人が集える居場所づくりを行う。その中で見いだされた問題・課題に関しては、ピア・サポートを中心とした対応を行った。

実施日：毎月第 2 水曜日 10:00～15:00

実施場所：事務所

スタッフ数：(通年) ボランティア 2 名、事務局 2 名

対象者：(延べ) 一般市民 187 名

④ 障がい児のきょうだい支援事業

実施なし

⑤ 健康増進事業

支出額 965 千円

こころとからだの健康教室ほっと

腰痛・肩こり・不眠などでお困りの方に動作法を行い、リラックスしていただいた。

実施日：月曜～金曜 9:00～18:00

実施場所：事務所、など

スタッフ数：(通年) トレーナー 1 名、事務局 1 名

対象者：一般市民

対象人数：(延べ) 97 名

## ⑥福祉啓発事業

支出額 575 千円

### A. 障がいに関する啓発事業（委託事業：鳥栖市）

障がいのある人への理解を促進するため、出前講座での啓発活動を行った。

実施日：10/21、10/27、11/28、3/25

実施場所：鳥栖ロータリークラブ、鳥栖小学校、  
鳥栖北まちづくり推進センター、鳥栖市役所

スタッフ数：(通年) 1 名

対象者：一般市民

対象人数：(延べ) 200 名

### B. エンパワーメントセミナー事業（委託事業：鳥栖市）

障がい当事者がそれぞれの立場や団体の利害関係を超えて集える場所『ほっとスペース』を開催し、楽しい時間を過ごしたり、悩みを共有したり、情報交換できる場所とした。また、3月には鳥栖市手をつなぐ育成会と共催で障害者差別解消法学習会を行った。

実施日：平成 27 年 5 月～平成 28 年 3 月（10 回）

実施場所：鳥栖市社会福祉会館

スタッフ数：(延べ) 講師 30 名、ボランティア 20 名、事務局 20 名

【ほっとスペース】

講師 1 名、スタッフ 5 名、事務局 2 名【学習会】

対象者：(延べ) ぴあ CAFE39 名、おや CAFE62 名、あなたの相談室 7 名

保育 16 名【ほっとスペース】

45 名【学習会】

### C. 研修・交流事業

テーマや対象者に合わせた研修会や出張講演・交流事業を行い、障がい福祉に関する理解を深めた。

ア. ブラインドサッカー体験会【十人十色 あなたは何色？】

実施日：平成 27 年 11 月 23 日

実施場所：鳥栖商工センター

スタッフ数：講師 3 名、事務局・職員 4 名

対象者：一般市民 29 名

イ. 放課後子ども総合プラン研修会

実施日：平成 28 年 3 月 7 日～8 日

実施場所：メートプラザ佐賀

スタッフ数：2 名

対象者：放課後子ども総合プランに携わる佐賀県内市町の担当者 19 名

ウ. 佐賀大学職員対応要領（案）及び職員対応要領における留意事項

（案）に対する有識者意見

実施日：平成 28 年 3 月

スタッフ数：1 名

エ. 出張講演

実施日、場所：

平成 27 年 6 月 9 日、12 日 ほほえみ館 4 階視聴覚室

「佐賀市人権・同和教育学級」

【障がいって何だろう!?!～誰もが自分らしく暮らせる社会～】 \* 講師

平成 27 年 6 月 25 日 筑紫女学園大学

「肢体不自由者の心理・生理・病理」

【障がいって何だろう!?!～誰もが自分らしく暮らせる社会～】 \* 講師

平成 27 年 9 月 2 日 嘉麻市なつき文化ホール

「飯塚市・嘉麻市・桂川町社会福祉協議会主催 公開講演会」

【障がい者の虐待と差別を防止するために】 \* 講師

平成 27 年 9 月 25 日 サザンクス筑後小ホール

「第 51 回市民福祉のつどい」

【サポ-1 グランプリ】 \* 審査員

平成 27 年 10 月 6 日、7 日、8 日 佐賀県自治修習所レセナル

「佐賀県自治修習所コンピテンシー能力開発研修」

【すみか活動紹介】 \* 話題提供

平成 27 年 10 月 26 日 みやき町中原庁舎 2 階研修室

「誤解されやすい子ども達と地域 パート 4」

【おとなが元気になるこどもとのかかわり】 \*講師

平成 27 年 11 月 22 日 サンメッセ鳥栖

「九州ブロック肢体不自由児者父母の会佐賀大会」

【「障害者の人生」を応援する組織のあり方について考える】

\*シンポジスト

平成 28 年 1 月 19 日 東佐賀病院

「東佐賀病院 院内研修」

【障がい者の虐待と差別を防止するために】 \*講師

平成 28 年 3 月 21 日 直方市総合福祉センター

「直方ボランティアのつどい」

【障害当事者の生きづらさに学ぶ】 \*講師

平成 28 年 3 月 29 日 鳥栖市内

「佐賀県肢体不自由児者父母の会鳥栖支部研修」

【障害者差別解消法について】 \*講師

スタッフ数：(通年) 1 名

対象者：(延べ) 会員、福祉関係者、一般市民、等 1,000 名

⑦ 障がい児・者を取り巻く福祉・教育・就労等に関する調査・研究事業

支出額 447 千円

鳥栖市障害者福祉計画策定のためのアンケート調査

鳥栖市障害者福祉計画の基礎データとするためのアンケート調査を行った。

実施日：7～12月

実施場所：鳥栖市内

スタッフ数：事務局3名

対象者：鳥栖市在住の身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持している方

対象人数：2,000名(無作為抽出)

⑧ 児童福祉法に基づく事業

支出額 13,777 千円

多機能型事業所さんかく

障がいのある子ども達の健やかな成長を支援するために、児童発達支援及び放課後等デイサービス事業を行った。

実施日：児童発達支援 月曜～金曜 9:00～14:00

放課後等デイサービス 月曜～金曜 14:00～17:00※延長 18:00

土曜 9:00～17:00(9:00～13:00、13:00～17:00の2部制)

長期休暇 9:00～17:00※延長 8:30～18:00

実施場所：さんかく（みやき町白壁）

スタッフ数：1日当たり3名以上

対象者：児童発達支援・未就学の児童

放課後等デイサービス・就学期の児童

対象人数：(延べ) 2,390名

#### ⑨ 障害者総合支援法に基づく事業

実施なし

#### ⑩ 上記の事業を達成するために必要な事業

支出額 2千円

A. 九州ブロック肢体不自由児者父母の会連絡協議会佐賀大会事務局業務  
鳥栖市で行われた大会について、当法人事務所に住所を置き、主催する佐賀県肢体不自由児者父母の会連合会の事務局業務をサポートした。

#### B. 市民協働事業

当法人のミッション達成にも通じる活動を行う市民活動団体と協働しての事業を行うと共に、各種審議会等の委員としての政策提言等を行った。

ア. 幸せの黄色いレシートキャンペーン※さんかく名義で

(イオン上峰ショッピングセンターに参加)

イ. 鳥栖・三養基地域自立支援協議会(構成団体として)

ウ. 鳥栖市障害者理解促進事業(芹田：委員として)

エ. ふれあいスクール(芹田：校長として)

オ. 鳥栖市市民活動支援補助事業検討懇話会(芹田：委員として)

カ. 佐賀県スポーツ審議会(芹田：委員として)

キ. 鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議(芹田：委員として)

ク. 鳥栖市総合計画審議会(芹田：委員として)

ケ. 鳥栖市障害者福祉計画策定委員会（芹田：委員として）

(2)その他の事業

特定非営利にかかる事業を滞りなく実施するため、以下の事業によって収入の確保に努めた。

①自動販売機設置事業

支出額 6千円

本法人を支援する個人宅や企業内に自動販売機を設置し、特定非営利活動に係る事業を資金的に補填した。また、設置に際しては販売機にその設置趣旨を明記し、啓発広報にも活用した。

実施日：通年

実施場所：本法人を支援する個人宅や企業内

スタッフ数：（通年）2名